

湊江小学校 外国語・外国語活動研究通信

今年度の3回目の本校の研究授業を渡邊 学志教諭が行いました。前回に引き続き、体育館で授業を行いました。協議会では、掲示物の活用・評価等について活発な意見交流を行いました。

研究主題

関わり合い、学びを広げ、深める児童の育成

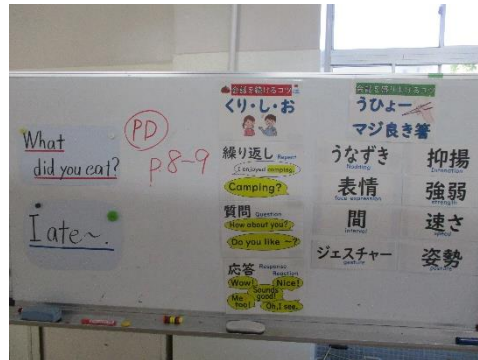
～思いを豊かに表現できる授業づくりを通して～

授業者：6年2組 担任 渡邊 学志 教諭

単元名：NEW HORIZON Elementary English Course 6 Unit 4 Summer vacation in the World. (4/8)

指導講評：外部有識者

〈授業の様子・板書・協議会の様子〉



協議会では、研究経過報告と渡邊教諭の自評があり、本時についての協議へと続きました。

〈研究経過報告〉

・6年生の児童は外国語への意欲がとても高く、「分かるようになりたい」「話せるようになりたい」という思いをもって学習に取り組んでいるが、正しく理解できていないために、「できた」という実感を持っていない児童も一部いる。

① 振り返りカードの活用

めあてに対し個人の課題を意識させるために、「今回はこうだったから、次はこうしたい」と書けるようにした。

② エンドプロダクトの提示

単元のゴールを「夏休みについて発表し合う」にした。今年の夏休みは今までと違うので扱いに困ったが、今年に限らず「My Best Summer Vacation」とし、期待感をもたせた。発表の際は4～5人程度のグループで行わせる。

③ くり返し使ってみてみたいと思わせる工夫

「My Best Summer Vacation」は発表するために It was ～. I went to ～. I enjoyed ～. I ate ～.などの文を毎時間一つずつ学習し、積み重ねをしてきた。教師同士や児童同士の Small talk では1時間の中で場面を変えて、繰り返し言ったり聞いたりする活動を入れてきた。6年生は児童同士の Small talk ができるようにした方が良いというアドバイスをいただいたので、分かりやすく覚えやすい「くり(繰り返し)し(質問)お(応答)」「う(うなずき)ひょー(表情)マ(間)ジ(ジェスチャー)良(抑揚)き(強弱)箸(速さ)姿勢」にした。

この3点を意識して授業作りをしてきた。

〈授業者自評〉

・この単元に入る前から「くりしお」を意識させてきた。今までは教科書に書かれているフレーズを順番に発表していただけだったが、繰り返しやってきたことで会話を広げられるようになってきていると感じる。

・児童が使えるような会話のフレーズをいくつか選んで掲示することで、活用して会話することができるようになってきたので効果的だったと思う

・課題は予定の時間をオーバーしてしまったこと。児童とのやりとりを多くとったり、分からない言葉を共有したりするなど、児童の理解を深めるために時間をとったので、指導案にある最後のところをカットしてしまった。

〈研究協議〉 ◎良かった点 △課題点 □質問

◎児童が「くりしお」を活用して会話を長く続けようとしている姿が見られた。

◎児童が今まで学んだことをしっかり使おうと意識していた。

- ◎先生がたくさん英語を使おうとしていて良かった。
- ◎自身の経験を想起しながら積極的に言語活動をすることができていた。
- ◎児童同士のやり取りの後、わからない表現をすぐに担任が答えるのではなく、児童に聞いて広げていたのが良かった。
- ◎Yesだけではなく、Yes, I do. No, I don't. としっかり言えていたのが素晴らしかった。
- ◎今まで学んだ内容を話型にして掲示していたのが良かった。
- ◎ペア活動で会話のやり取りがスムーズだった。
- ◎「くりしお」など教師が Small talk で実践し児童に良い影響を与えていた。
- ペア活動が一往復で終わっているところがほとんどなかった。どういった指導でやっていたのか「くりしお」「うひゃーマジ良き箸」以外であつたら教えてほしい。
- 最初は抵抗感があつたが、「君たちはすごい」「君たちはできる」など励ましの言葉を言って自信をもたせた。
- ▲担任が「くりしお」を使っていたのが良かった。少し繰り返しが多かつたので児童たちに言わせると良いのではないかと思った。掲示物があるので、児童に言わせてもよいと思う。児童は掲示物を活用していた。
- 定着に不安があつたので繰り返した
- (足立区教育委員会)リポートしなくてもできる。大丈夫だと思う。
- (足立区教育委員会)掲示物が拠り所になっているが、掲示物がなくてもできるようにして行ってほしい。でも見に行けばあるという安心感をもたせてほしい。授業で使った掲示物を貯めていって教室に英語スペースがあると良いのではないか。
- ▲Small talk の時に写真があると理解の助けになる。理解が不十分な児童でも写真を見れば、理解ができると思う。また、切り替えができていないときでも写真を使って引きつけることができる。
- 教室ではセブ島をモニターに写していたが、体育館では忘れてしまっていた。
- ▲「釣った魚は食べましたか」という言い方の質問では、前後の文がないと聞きたいことがわからない。
- 今後はしっかり前後の文を聞き取っていきたい。
- ▲振り返りの自己評価のところには絵があつたが言葉がなくて児童たちもどうしたら良いかわかっていない児童もいた。
- 言葉のあるバージョンも作っていたのに、授業直前に見あたらなくなってしまった。しかし、毎回活用しているので児童は理解していると思う。
- ▲授業が5分のびてしまった。Small talk はあつたほうが良いのか。どう扱うべきものなのか。
- (校内教員)Small talk は今まで使った表現や前時の学習の振り返りで定着を図ったり、会話しながら定着を図ったりするものなので大切な時間である。毎時間やっているから、児童は「くりしお」を意識している。
- 前よりも児童はのびてきている。そして、定着してきている。日付をカットしても良いかもしれない。
- (足立区教育委員会)Small talk は2回に1回ぐらいでも大丈夫と言われている。

〈指導・講評〉

◎授業について

- ・渡邊先生のイントネーションはとても上手で外国語指導者として素晴らしい。mushroom, curry, spicy などの発音も良かった。
- ・児童たちに「言いたいことある?」と日本語で聞いていたのが、特徴的だと感じた。
- ・児童たちは最初のグループ活動で活発に発言していたが、表現を注意してから2度目に、グループ活動を再現させた時は、活発さが失われたので、2度目は再現させずに練習のためにリポートさせるのも良いと思う。
- ・We Can!と比べると歌は長くなっているし使う単語も増えてきた。
- ・イントネーションも大切にしてほしい。また、I、You だけでなく、She、Heを使って表現しても良い。
- ・「夏の思い出」「夏の活動」「食べた」学習内容が少し複雑になっていると感じた。

◎CLIL を用いる指導方法 Content and Language Integrated Learning 「内容言語統合学習」

内容言語統合型学習とは、社会や理科などの教科と外国語の両方をあわせて教育する外国語の学習方法

(例) 外国語でやってみよう 4年生 都道府県の名産を英語で言ってみよう。

〈質問〉指導・講評後に学力定着推進課統括指導主事等も交えて質疑応答の時間を設けました

□言えるための練習をしたほうが良いのか。言えるようになりたいから練習するのか。

(足立区教育委員会) 言語活動を通して言わせる。軸はそこにおいても良いと思う。練習のための練習にならない工夫をする。実際の場面を意識した練習をしないと身に付かない。最終的なゴールを目指して気付かせる。

□練習時間を取らないとA評価が取れない。英語の習いごとをしていない児童にもA評価を取らせるためにはどうすれば良いか。

(足立区教育委員会) 今日のことのできたらB評価。A評価は各学校で適切に判断してほしい。でも、まずは全体をB評価にしてほしい。そのB評価を超える児童がいるのであれば学校や学年の評価規準をもとにA評価をつけることができる。知識・技能 B 思考・表現・判断 A 主体的に学習に取り組む態度 A、ならば学校の判断のもとA評価になることもある。

□日本語の量はどれぐらいが良いのか。今日の授業は多いのか。

(外部有識者) 全て英語にせずあえて日本語にしているのだと感じた。児童に安心感を与えた。

(足立区教育委員会) 以前の渡邊先生の授業と比べ、英語がとても増えたが、日本語も多いと思った。

(足立区教育委員会) 「くりしお」「めあての時に」の2回だけだったので、中学校と比べても教員英語の発語量は十分

だと感じた。